

# 元 氣 の 源 通 信

人事労務・社会保険等手続き・助成金・給与計算

特定社会保険労務士・経営士 深川順次

福岡市博多区比恵町 11-7-701

TEL 092-409-9257 FAX 092-409-9258

(今月の言葉)「幸せの国」ブータンに学ぶ

- ① 心からよいと思えるビジョンがある
- ② 強さを発揮できる戦略をもつ
- ③ 女性がイキイキと働いている

2012年新年号(第109号)

昨年を一言で表した言葉は「絆」でした。東日本大震災は人と人との「絆」の大切さをあらためて気づかせてくれました。そして今一番求められているのが「希望」ではないでしょうか。希望ある人生を切り開いていくことです。

世界は今、大きな転換点を迎えているような気がします。ギリシャの債務危機に端を発したECの崩壊的危機、「ウォール街を占拠せよ!」という運動から始まった反格差デモはアメリカ全土を席巻しました。そして日本は東日本大震災一原発事故に見舞われ、更なる停滞感を強めています。いわゆる「先進国」と言われる国々は大きな壁に突き当たっています。

そういう中で、昨年ブータン国王夫妻が来日し、爽やかな風を吹き込んでくれました。ブータンでは97%の国民が「幸せ」と感じ、誇りと自信をもって生活していると言われています。ブータンは人口70万人の小さな国です。しかも国連からは「特に開発が遅れている国」(後発開発途上国)の1つに指定されています。しかし日本では「開発途上国」というよりも「幸せの国」で知られています。

今回は、ブータンに学びながら「希望ある人生を切り開く」一助にしたいと思います。

## 「幸せの国」ブータンに学ぶ

### 心からよいと思えるビジョンがある

ブータンの人々が自信を持って「ブータン、いい国でしょう」と自慢する背景には、GNH(国民総幸福度)というビジョンがあります。GDP(国内総生産)ではなく、GNHの最大化を目指しているからです。一言でいえば「経済発展だけでは人間は幸せになれない」ということです。

ブータン国立研究所所長のカルマ・ウラさんはGNHについて次のように述べています。

「経済成長率が高い国や医療が高度な国、消費や所得が多い国の人々は本当に幸せだろうか。先進国でうつ病に悩む人が多いのはなぜか。地球環境を破壊しながら成長を遂げて、豊かな社会は訪れるのか。他者とのつながり、自由な時間、自然とのふれあいは人間が安心して暮らす中で欠かせない要素だ。金融危機の中で、関心が一段と高まり、GNHの考えに基づく政策が欧米でも浸透しつつある。GDPの巨大な幻想に気づく時が来ているのではないか」

GNHは次の4つの柱で構成されています。

- ①持続可能で公正な社会経済発展
- ②自然環境の保全
- ③有形無形文化財の保護・促進
- ④良い統治

更に、幸福という概念を9つの要素に分類し、幸福度を促進しているのです。

①基本的な生活(貧富の差をなくす)、②文化の多様性、③感情、感性の豊かさ、④健康に生活できる環境、⑤教育環境を整える、⑥時間の使い方、⑦循環型の仕組みづくり、⑧コミュニティに活力をもたらす、⑨よい統治

ブータンでは、医療や教育は無料化されています。

まさに、「心からよいと思えるビジョンを持つこと」がいかにも人々に誇りと自信を与えるか、ブータンがそれを如実に示しています。

## 強みを発揮できる戦略を持つ

もちろんブータンも、「社会経済的発展」をGNHを向上させる1つの条件としています。ブータンは財政の3割を海外、特に隣の大国インドからの経済援助に頼っています。それゆえ経済的自立は大きな課題となっています。

この経済的発展のために力を入れているのが、水力発電と観光です。

ブータンは、国を挙げて水力発電を推し進めています。ヒマラヤの豊富な雪解け水が流れる川があり、しかも急流です。この地の利を生かして、水力発電をつくり、近隣諸国にまで売電しています。もちろんダムをつくるために住民に立ち退きをさせたり、広範囲の生態系を壊すような乱開発はしません。それはGNHに反すると考えるからです。

産業のもう一つの柱が観光業です。現在年間4万人の海外からの旅行者を10万人まで増やしたいとしています。ブータンには「手つかずの大自然」があります。「人々の幸せな暮らし」があります。これを目当てに旅行者が増えています。

しかし、ただ旅行者が増えればよいとは考えていません。あまりにも急激に旅行者が増えると自然や暮らしを変容させかねないからです。そこで、1日の最低料金を定めています。「1日観光公定料金200ドル」を設定し、それでも来てくださる方に、ブータンの自然と暮らしを楽しんでもらおうとしています。

ブータンは、水力発電と観光業を両輪とし、同時に豊かな自然と暮らしを守りながら自立の道を歩んでいます。

## 女性がイキイキと働いている

ブータンでは、女性の存在感が非常に強いと言われています。

重要な職場や部署で多くの女性たちが活躍しています。GNHC（国民総幸福度コミッションー政府の中で全体の計画を示し重要政策を統括する役割を担っている機関）で働いている御手洗瑞子（みたらい・たまこ）さんは次のように述べています。

「私の職場では、過半数が女性です。個人的な知り合いの女性たちも、ほとんどが仕事をしています。医師、CMプランナー、ファッションデザイナー、飲食店経営、NGO代表、政府機関の管理職・・・しかも堂々として仕事をしています。私の職場では圧倒的に女性の声の方が大きい」

ブータンでは、大体17時半には仕事を終えて家族が集まり、家族が手分けして夕食を準備することが多いようです。もちろん男性も料理を作ります。特に「正月や親せきや近所の人が集まって祝う場では、料理を作るのは男性」だと言います。まさにブータンでは「女も仕事、男も家事」が普通のようなのです。

女性の存在感が大きい要因の一つは、「ブータンは女系家族」だということです。基本的に嫁入りではなく婿入り。妻の方が家の主です。相続も息子ではなく娘にされます。このことが女性の力を強くしていることは間違いありません。

「女性がイキイキと働き生活していること」このことが、ブータンの魅力を引き立てています。

ブータンは小さな国です。人口でいえば日本の185分の1です。例えばブータンを70人規模の中小企業に例えると、日本は1万人以上の大企業となります。しかし、ブータンは世界を引き付ける魅力ある国づくりをおこなっています。ここに中小企業が学ぶ大きな要因があります。

なによりも ①従業員が誇りにし自信につながるビジョンを持つこと

②強みを発揮できる戦略を持つこと

③女性がイキイキと働ける職場にすること 　です。